



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/18 (月)	+ 300	+ 2,300		国庫短期証券発行・償還 (3M)	c p等買入 社債等買入 補完オペ ▲ 100 ▲ 200 + 100		日：業態別の日銀当座預金残高 (3月)
4/19 (火)	トン	+ 6,000	+ 6,000				日：鉱工業生産指数 (3月)
4/20 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国庫短期証券発行・償還 (1Y) 流動性供給 (残存期間5Y~15.5Y)		社債等買入 + 1,000	日：貿易収支 米：米地区連銀経済報告(ページブック) 公表
4/21 (木)	▲ 2,000	+ 6,000	+ 4,000				英：英中銀総裁の講演 欧：ユーロ圏CPI (3月)
4/22 (金)	▲ 2,000	▲ 2,000	▲ 4,000	流動性供給 (残存期間15.5Y~39Y)			日：CPI (3月) 欧：ECB総裁の講演

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初国債買入オペがあり先週末対比1兆1,300億円増加の559兆6,800億円から始まった。その後、13日には税揚げ等により同残高は557兆9,200億円まで減少したが、週末15日には年金定時払いを主因に566兆3,700億円(速報)まで増加し越えた。

無担保コールON物加重平均金利は、週末の積み最終日を控え積み期終盤に差し掛かり調達を控える先がみられたため、先週末から対比△0.002%低下しの△0.008%からスタートした。13日以降は一層の調達意欲減退により同レートは低下基調を辿り、週末15日は△0.016% (速報) となった。

ターム物では1W~1M物を中心に主に△0.015%~△0.001%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内では20日に貿易収支の公表や22日にCPIの公表があり、海外では20日に米地区連銀経済報 (ページブック) 公表や22日にECB総裁の講演などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.050 ~ 0.001
1M	△0.020 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GC取引は週初△0.20%近辺から始まり、週央にかけて△0.10%台後半で取引された。以降もレートは上昇し、短国3Mの発行日となった18日受渡しでは△0.10%近辺から出合い始め、△0.08%台まで上昇して越えた。SC取引は2年425~435回債、5年137~150回債、10年333~366回債、20年164~179回債、30年69~73回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.010 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約10,200億円で、週間償還額 (約4,700億円) を上回った。発行市場は、5・10日発行と期明けの大型発行が重なり、活況なマーケットであった。発行残高は先週末の22兆5,343億円から4月14日時点で22兆8,562億円に増加した。発行レートは、0%近辺での出合いであった。8日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた (下限応札レートは△0.09%[前回△0.08%]に変更)。結果は、按分レート△0.008%・平均落札レート△0.004%と前回比 (按分レート△0.013%・平均落札レート△0.010%) で上昇した。期明け後に0%近辺での発行が相応量みられたこと等がレートの上昇に繋がったものと考えられる。

来週の週間償還額は、約2,100億円となっている。発行市場は、5・10日発行が続くことから発行超を予想する。発行レートは0%近辺での出合いを予想する。

【レンジ】CP3M (a-1+) △0.010%~0.000% 現先取引 △0.050%~0.000%

<TDB>

4月15日の3M1073回債の入札は、最高落札利回り△0.1005% (前回債△0.1179%)、平均落札利回り△0.1128% (前回債△0.1223%) となった。来週は19日に1Y、21日に6M、22日に3Mの入札がある。